

COLLABO



2026 Vol.1



特集① 学校応援団（志木市立宗岡中学校）



特集② 放課後子供教室 桜木っ子ふれあいじゅく（熊谷市立桜木小学校）

本気で向き合う。それが私たちの愛のかたち。

学校応援団

学校教育目標：向学 協働 健康
生徒数：416名（5月1日現在）
住所：志木市上宗岡1-8-1
学校HP：<https://www.munechu.ed.jp/>

環境整備活動の参加受付の様子

志木市では令和七年度からすべての小・中学校で小中一貫教育がスタートしました。宗岡中学校（深田耕平校長）は、宗岡第二小学校、宗岡第四小学校との小中一貫教育「宗岡みらい学園」として二年目を迎え、「笑顔あふれ、たくましく、粘り強い児童生徒」を目指す児童生徒像に掲げています。

五月九日（土）志木市では、午前九時から「親と子の市内まるごとクリーン作戦」が開催されており、市内の小・中学生や保護者がゴミ拾いをする様子が多く見られました。

一週間後に体育祭を控えている宗岡中学校では、クリーン作戦にあわせて学校応援団による環境整備が行われました。

十時のスタートに合わせて、中学生がゴミ袋を手にしてやってきました。自宅から学校に行くまでにクリーン作戦に取り組みながら来たとのこと。袋の中を見せると、結構なゴミが入っていました。この日、環境整備のボランティアとして参加した生徒は十二名。ソフトテニス部員も部活の合間に参加していました。

限られた人数で

環境整備を実施するにあたり、宗岡中学校では、連絡アプリ等で情報を発信し、事前に参加者を募っていました。集まった学校応援団の数は十五名ほどで、草刈りや枝拾いなど、事前に役割分担をして、取り組んでいっしやいました。

参加された方の中で目を引いたのが、おそろいのポロシャツを着た男性陣。宗岡中学区おやじ仲間クラブの皆様でした。お話を伺うと約四十名の方が登録をしているそうですが、実働部隊としては十名程度とのこと。「できる人ができる時に」協力しているそうです。



学校までゴミ拾い

コーディネーターを 複数配置

宗岡中学校にはコーディネーターが四名いらつしやいますがこの日はコーディネーターの方が不在であったため、川瀬教頭先生がPTAの副会長の立場で指揮を執りました。活動前には、参加者に向けて、熱中症対策をして取り組むこと、ケガに気を付けて無理のない範囲で行うよう参加された生徒や学校応援団の方に伝えていました。その後、準備運動をしてから、それぞれの分担に従って環境整備が始まりました。



宗中学区おやじ仲間クラブの方々



川瀬PTA副会長（右）の話に耳を傾ける参加者

宗岡中を卒業生した三人のお子さんを持つ女性に話を伺いました。お子さんが卒業した後、学校応援団の活動に関わっている理由について「以前は子供の習い事の送迎でなかなか参加できなかったけれど、今では仕事の合間をぬってできるだけ参加するようにしています。子供が好きなので、子供たちのために、地域のために何かできることがあればという思いから参加しています。宗岡中に限らず宗岡みらい学園の学校応援団の活動には積極的に参加するようにしています。」と話してくれました。

子供たち、 地域のために



役割を確認してから活動開始

保護者目線で

活動が始まった時は、枝葉等を集めていた女性も、場所を変えて草の生い茂っているほうに移動して、「保護者目線」で作業をしていました。翌週控えている体育祭で、保護者の動線を考えて、近くに落ちている枝を集めていました。中学生になると、小学生の時に比べてお子さんからの情報が少なくなることもあり、学校に行く機会があれば積極的に顔を出すようにしているそうです。



危険なものがないか確認

志木市の社会教育委員でもあり、お子さんが宗岡みらい学園の小学校に通っている女性に話を伺いました。宗岡中の保護者ではないため、宗岡中の学校応援団として取り組みることが新鮮で、生徒たちから「ありがとうございます」と声をかけてもらえることがとても気持ちよいと言います。

つる草などがうっそうと生い茂った場所で、エンジン式の草刈り機を使って作業する男性がいらっしやいました。その方のお子さんが野球部でお世話になったそうです。卒業後も、学校への感謝として野球部の後輩たちのために作業しているとのこと、ブルペン周辺がきれいに整備されていました。



お世話になった場所をきれいに
(左下は宗中学区おやじ仲間クラブのキャラクター)



宗中学区おやじ仲間クラブの方は刈払機で

子供は宗岡中に通っていないけれど、宗岡中に関わることで学校の様子がとてもよく分かります、と語っていました。一人黙々と除草作業をしていた女性も、前日まで参加することもあり、前日まで参加するかなんだ結果、活動に参加したそうです。なぜ参加したかというところ、小学校でPTA役員を務めていた経験があり、中学校に環境整備に行ったら当時のメンバーに会えるかな、と思ったから。誰もいないのは予想外で残念でしたが、草取りを無心ですることで仕事きりしたと話してくれました。



保護者同士のつながりも

宗岡中応援団 だからこそ

昨年度の音楽会にも学校応援団として参加した方からお話を伺いました。「生徒の入場をサポートするなかで、写真撮影ができたり、前の方に座って見ることができたりしてとても良かったです。」宗岡中の学校応援団にはこのような特典がつくことも。「いいこともあるから、一緒に応援団の活動をやりましょう」と積極的に知人に声をかけて人材確保にも努めているそうです。



ボランティアの生徒たちもそれぞれの役割をしっかりと果たしていました

コミュニティ・スクールと 地域学校協働活動の 一体的推進

宗岡中学校では、令和六年度まで、学校運営協議会を年間五回開催していましたが、小中一貫教育が始まった昨年度から年間四回とし、宗岡みらい学園として三回開催しています。そこでは、学校応援団に関する報告、情報提供が行われています。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）と地域学校協働活動の一体的取組が進んでいくうえで、地域住民等が学校に協力する活動について、学校運営協議会の場で、どのような子供を育てていくのか、どのような学校を目指していくかを学校と地域が共有して取り組んでいくことが大切です。



学校応援団募集案内

宗岡中に転入してきた生徒の保護者は、心配なことが多い中で、とてもよくしてもらった宗岡中に、何かできることがあれば応援したい、という気持ちがあったそうです。そんな時に、学校応援団の話聞き、できる限り活動に参加しています。

この日の受付にも学校応援団の団員募集の案内が掲示されていました。ボランティアとして学校応援団の取組に関わる人数が約三百名近い宗岡中学校（令和七年度調査結果より）。

「困った時にはその都度、保護者、地域の方にメール等で協力を求めています。健康診断でも協力をいただいたことは大変ありがたかったです。」様々な方法で学校応援団への協力を依頼しています。

「できる人ができる時にできることをといったスタンスで細く長くやっていけたらと思っています。続けることで、保護者を含めた地域の方々のつながり、大人同士のつながりがやがて、生きがいになっていきます。」と川瀬PTA副会長は語ります。

宗岡中学校の環境整備に関わる方の姿から、学校は子供だけではなく、地域のつながりづくりの場でもあることを改めて感じました。

できる人ができる時に

学び合い

認め合い

高め合う

桜木小学校

放課後子供教室

桜木っ子ふれあいじゅく

学校教育目標：進んで学ぶ子 心の美しい子 強くたくましい子
生徒数：162名（5月1日現在）
住所：熊谷市桜木町2-33-1
学校HP：<https://kumagaya-sakuragi-e.ed.jp/>

ふれあいキャンプ開会式の様子

学校へ泊まろう

五月二十三日（土）熊谷市立桜木小学校（小川義人校長）は、多くの児童や保護者、地域の方々でにぎわっていました。学校に向かう親子の中には、寝袋を持ってくる児童の姿も見られました。

この日から一泊二日のふれあいキャンプ「学校へ泊まろう」が実施されるのです。主催は、桜木小学校区の放課後子供教室「桜木っ子ふれあいじゅく」。校長先生もメンバーになっており、桜木小学校区のあらゆる年代で構成される「桜木っ子ふれあいじゅく」のスタッフは、子供会やPTA等約二十名。そのほか、ふれあいキャンプには、ボランティアとして中学生や高校生によるジュニアリーダーや立正大学の学生、保護者の方々合わせて約五十名もの協力があり、盛大に実施されました。

参加児童数は一年生から六年生までの八十五名。一・二年生は保護者と一緒に体育館で、三年生から六年生までは子供たちだけで校庭のテントに泊まります。



受付を担当する6年生

午後一時から受付が始まりました。受付を担当していたのはジュニアリーダーや大学生。そのほか、六年生の児童の姿もありました。今年から六年生は運営にも協力をしてもらうことになり、午前中から学校に来て、トイレ掃除をしたり薪を割ったり、会場の準備を行っていました。最高学年として参加するだけではなく、運営側のお手伝いも任されることは、リーダーとしての意識を生むきっかけにもなると感じました。開会式を担当する児童は司会原稿を何度も確認して緊張している様子でしたが、昨年度も経験している役員の方に相談しながら練習しており、本番では緊張よりも楽しさが増している感じがしました。

体育館の中には低学年が泊まる蚊帳が設営され、中に入りたいとわくわくしている児童が沢山いました。



ドキドキのグループ分けの発表



1・2年生は保護者と一緒に蚊帳の中で

ふれあいキャンプの日程

	時間	活動
1 日 目	13:00～	集合・受付
	13:30～14:00	開会式
	14:00～17:00	班活動 テント張り、かまど作り、 夕ご飯準備
	17:00～18:00	夕ご飯（カレーライス）
	18:00～19:00	片付け
	19:00～20:00	よるのおさんぽ
	20:00～20:45	着替え、歯磨き
	21:00	就寝
2 日 目	6:30	ラジオ体操
	6:45～7:30	朝ご飯（ホットドック）
	7:30～11:00	片付け、荷物の整理、掃除 片付後はレクリエーション
	11:30～	閉会式
	12:00	解散

午後一時三十分。開会式が始まりました。校長先生から「自分だけではなく、みんなが楽しめるにはどうしたらいいか考えて行動しましょう。」と挨拶があり、その後、運営委員長の高橋さんから「ルールを守ってけがなく楽しく過ごしましょう。」という言葉の後に、改めて注意事項が伝えられていました。包丁や油を使う場面もあるので、けがのないように二日間過ごしましょうね、ということでした。そして、分からないことがあったら班担当の役員やボランティアに聞くようにしましょう、と注意を促していました。

開会式が終わり、キャンプのグループ分けの発表。子供たちはそれぞれわけている様子でした。六年生以外は学校での宿泊行事の体験はないので、初めての泊まり。しかも学校の校庭で。学年ごとに分かれて、宿泊班が発表されました。歓声があがっていたのは、高学年。大盛り上がりでした。三年生の児童が「早くキャンプ張りやろう」と言うので班担当の方が、「それを言うならテント張りね」こんなやりとりからふれあいキャンプを心待ちにしていた様子が伺えました。また、一緒に活動する大人も生き生きとしていました。

子供も大人も
心待ちにしていた



子供だけで組み立てる姿も



みんなで協力してテントの設営



経験を生かして子供たちに声をかける



桜木小学校の卒業生でもある渡邊さん

大学生の協力

各グループに分かれてテント張りの様子を見てみると、手際よくテントの設営をする大学生の姿が。立正大学二年生の渡邊あいキャンさんに参加した一人。記憶に残っているのはお化け屋敷をしたことだそうです。そのほか、鬼ごっこやスタンプラリーなど、ふれあいキャンプで楽しかったことをうれしそうに語ってくれました。

今年度のふれあいキャンプでは、「よるのおさんぽ」のアイデアを求められ、屋上に行くことを提案しました。協議の結果、暗い足元を照らす電灯を屋上に設置することで安全が確保され、実現に至りました。今年度参加した十一名の大学生のほとんどが幼稚園や小学校の先生を目標としているとのこと。「自分自身が経験した行事に、ボランティアとして関わることは、運営する側のことが分かるのと同時に、自分にもプラスになります。子供と関わることは、将来教員になった時に絶対に役立つと思います。この時間を大切にしたいです。」と話してくれました。経験を生かして子供たちに声をかけ、できたことをほめている姿が大変印象的でした。



ジュニアリーダーも大活躍

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組を推進する上で、若者の参画が近年求められています。全国的にみると、若者世代が学校運営協議会委員になっている学校もあります。文部科学省では、地域活動の次世代の担い手育成と人材確保に上げるイベントを開催しています(※[文部科学省ホームページ](#))。テント張りを終えると、夕ご飯準備に子供たちも加わりました。大勢の大人がいる中で、野菜を切ったり、お米の炊き具合を見たりと日常では経験できないことが沢山ありました。



保護者同士のつながりも生まれる

ふれあいじゅくに参加する児童の保護者からは、「これだけやってくださっているので、できることは協力しようと思っています。家族でキャンプに行くことがないので、特にふれあいキャンプは子供も親も楽しみにしているイベントです。」「昨年度のキャンプが終わった時に、また来年も絶対参加する、と子供が言っていたので、とても楽しかったのだらうな、と思いました。親としても楽しく参加しています。」といった声がありました。未就学児がいる家庭において、兄や姉が参加する姿を見て、自分も早く小学生になって参加したいという子も多いようです。



多くの人との関わりの中でたくさんのことを学びました



高橋さん(左)と小川校長先生(右)

学校運営協議会の委員でもある高橋さんは、子供たちが桜木小でよかったと言ってももらえるようにするという強い思いから、ふれあいキャンプの運営に携わります。以前は七月に開催していましたが、ここ数年の暑さが今年も予想されること、高橋さん自身がお祭りの実行委員にもなっているということもあり、五月開催となっているそうです。学校に泊まるということは貴重なこと。ふれあいじゅくのことに限らず、何ができて何ができないかは分からないので校長先生にはよく相談しています。ふれあいじゅくの土日実施が多いのは、運営している役員の多くが平日働いている方が多いため。ジュニアリーダーの協力も助かっているそうです。

『学び合い、認め合い、高め合う桜木小』を目指している小川校長先生。地域の方々の協力には大変驚いているとのこと。「これだけの方々が協力してくれることは大変ありがたいことです。」と目を細めています。そんな人との関わりを大切にしたいという思いが桜木小学校区には浸透しています。

桜木っ子ふれあいじゅくの目指すもの

子どもが、地域でそだつ。その地域のコミュニティ創《づく》り
親がかわれば、子もかわる
異年齢、世代間のコミュニティ創《づく》り



屋上から見た校庭はキャンプ場と化していました

埼玉の学校応援団



埼玉県マスコット「コバトン」
「さいたまっち」

埼玉県では、平成23年度からすべての小学校に、平成24年度からすべての中学校において学校応援団が組織されています。これは、平成17年度からの「元気な学校をつくる地域連携推進事業」に由来するものです。令和8年度の地域学校協働情報通信「COLLABO」では、当時の「元気な学校をつくる地域連携推進事業」において地域連携推進校として指定されていた「学校応援団」にスポットをあてて、現在の活動状況等について報告いたします。

学校教育目標：かしこく あたたく たくましく

合い言葉：「すべては子供たちのために」

児童数：301名（5月1日現在）

住所：秩父市金室町9番46号

学校HP：<https://www.city-chichibu.ed.jp/nishisho/>

秩父市立西小学校



学校応援団

会議

今回訪れたのは、秩父市立西小学校（山中桂一校長）。学校応援団の会議が午後六時から行われるということで見学させていただきました。集まったのは十四名の学校応援団の方々。コーディネーターの新井さんの挨拶、応援団の方々から自己紹介、その後今年度の活動計画等について協議が行われました。

西小学校の学校応援団は、学校区における十町会の町会長と学校応援団編成会議を開催し、各町会の長寿クラブ等の応援をいただき、当初は四十三団体で組織されていました。

さらに、学校応援団の方が来校されたときの居場所、児童とのふれあいの場としての活動拠点教室「ふれあいルーム」がありました。しかし、現在の西小学校応援団の協力団体は二十一団体に減少。「ふれあいルーム」も今は存在していません。

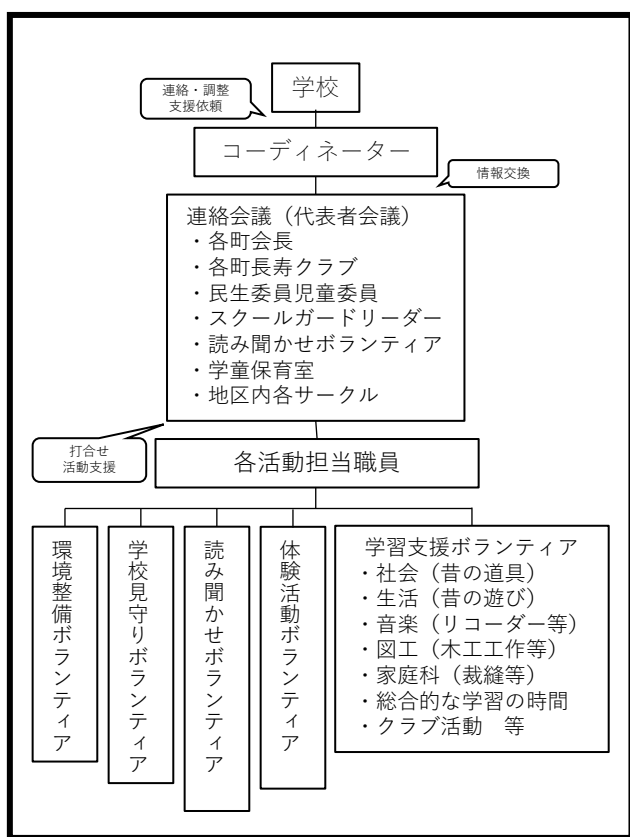


今年度の活動計画について確認

時を経て…

変わらずに残っているものは、明確に位置付けられた組織図(※)と年間活動計画です。

家庭科「針と糸を使ってみよう(六年生)」「生活を楽しくするものを作ろう(六年生)」の学習には民生委員・児童委員協議会の方と保護者の方が、図工「くぎうちトントン(三年生)」の学習には建設埼玉秩父支部の皆様が協力をするなど、一年間の学校応援団の活動計画が立てられ、参加された皆さんで内容の確認をしていました。



※学校応援団組織図



玄関の掲示物

課題は

後継者問題

学校運営協議会委員でもある新井さんに学校応援団の課題を伺うと「後継者問題」を挙げられました。令和七年度地域学校協働活動の推進に係る「学校応援団」調査において、課題として挙げられた中で最も多かったのは「人材確保、高齢化、世代交代」です。西小学校でもやはり人材については課題でした。



山中校長先生(左)と新井さん(右)

関係団体の総数は減っても十の町会からの協力は以前と変わらず、そして学習内容によつては保護者の協力も得ているところは、西小学校の目指す学校像「保護者や地域から信頼され、誇りとされる学校」に向け、西小学校の先生方が「すべては子供たちのために」を合言葉に保護者や地域の力を取り入れながら学校の力を高めていくことの共通の思いを持っているからだと感じました。

現在、西小学校では、ボランティア活動を推進しており、学校独自でボランティア手帳を作成しています。地域行事にボランティアとして協力するなど、地域貢献活動に取り組んでいます。

埼玉県では、地域学校協働活動の円滑な推進を図るため、地域学校協働活動等の運営方法に関することや、学校と家庭・地域社会との連携・協働の在り方について協議する「地域学校協働推進委員会」を設置しており、地域学校協働活動推進委員会委員※による会議が年二回開催されます。

五月二十二日（金）に開催された第一回では、地域学校協働活動の概要説明や、令和八・九年度地域学校協働活動の推進に関する研究委嘱市町から研究計画についての報告を行いました。

そして、「子供たちの成長を地域全体で支える社会の実現に向けて」をテーマに協議が行われました。

小・中学校を中心とした、地域学校協働活動の現状と課題を共有し、地域・学校・行政・家庭・企業が連携・協働を進める重要性が改めて確認されました。特に、放課後児童クラブや放課後子供教室の活用による安全確保や多様な学びの推進、障害をもつ子供や多様な子供への支援体制の強化、教職員の負担軽減といった現場の具体的な課題への対応が話題になりました。

今後は、地域住民や関係機関の参加による協働体制を整備し、持続可能な支援体制を築くことが重要となります。各地域の事例や取組を共有し、情報交換や関係課における連携の強化を継続的に進め、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的取組を推進していきます。



埼玉県マスコット「コバトン」

※地域学校協働活動推進委員会委員

1	教育総務部副部長
2	県民生活部共助社会づくり課
3	県民生活部スポーツ振興課
4	福祉部こども支援課
5	県立学校部県立学校人事課
6	県立学校部高校教育指導課
7	県立学校部保健体育課
8	市町村支援部小中学校人事課
9	市町村支援部義務教育指導課
10	教育総務部文化財・博物館課
11	教育総務部生涯学習推進課
12	さいたま市教育委員会代表
13	埼玉県公立小学校校長会代表
14	埼玉県中学校長会代表
15	保護者代表
16	埼玉県商工会連合会代表
17	埼玉県学童保育連絡協議会代表
18	埼玉県図書館協会代表
19	コーディネーター代表
20	学識経験者
21	研究委嘱市町村教育委員会代表
22	教育事務所代表

令和8・9年度地域学校協働活動の推進に関する研究委嘱

【テーマ】社会総がかりでの教育の実現に向けたコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

地区	研究委嘱市町	研究指定校	個別のテーマ
南部	鴻巣市	鴻巣市立 田間宮小学校	コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進 ～「パートナー」としての地域と学校へ～
西部	滑川町	滑川町立 福田小学校	子供・学校・地域がつながる地域学校協働活動の推進 ～地域・学校が総がかりとなった「豊かな学び」の充実を目指して～
北部	秩父市	秩父市立 久那小学校	持続可能で子供たちが中心となる地域学校協働活動の推進 ～学校応援団の系統化と教育課程の見直しを通した学校運営協議会の充実～
東部	八潮市	八潮市立 八條小学校 八條北小学校 八條中学校	八潮市小中一貫教育ビジョン「架け橋に、なる。」の具現化に向けたCSと地域学校協働活動の一体的推進 ～八條中学校ブロックが主導する自律的な教育デザインと、地域と共創する新たな学びの拠点づくり～

地域学校協働活動推進委員会のもと、県内四地区の教育事務所（南部、西部、北部、東部）単位で設置されているのが地域学校協働活動担当者会議です。六月上旬、市町村の学校応援団担当者や放課後子供教室担当者が参加し、情報交換・意見交流が行われました。

地区別担当者会議は推進委員会と同じ年二回オンラインで開催されます。

	第 1 回	第 2 回
南部	6月10日（水）	1月19日（火）
西部	6月12日（金）	1月15日（金）
北部	6月9日（火）	1月21日（木）
東部	6月11日（木）	1月20日（水）

4 地区における地域学校協働活動の現状と今後の方向性

1. 現状の共通点

・地域連携の強化と課題

地域学校協働活動が各地区で進み、多様な主体（地域住民、PTA、ボランティア、自治会、放課後児童クラブ等）が協力している。学校と地域との連携は深まっている一方で地域によっては、地域コーディネーターの不足、ボランティア参加者数の減少等、人材不足の課題も見られる。

・連携体制と情報共有の重要性

連携を支える会議体やコーディネーターの役割が重要視されており、情報共有システムの構築の推進も求められている。

・放課後の活動や子供支援の多様な展開

放課後児童クラブや放課後子供教室、学校支援ボランティアなどの活動が行われているが、地域差や運営課題もある。

2. 今後の方向性

・人材確保と育成の強化

コーディネーターやスタッフの育成・研修体系の充実を図り、地域学校協働活動の担い手を増やす。

・情報共有・発信力の向上

ホームページやSNSを活用した情報発信の強化、活動の見える化と理解促進。

・地域特性に対応した活動展開

地域のニーズに即したイベントや事業を企画し、地域参加を促進。地域の多様な主体との連携をより深化させる。

・課題対応と継続的な研修・交流の推進

参加者間の課題共有及び解決策の検討、スキルアップを目的とした定期的な研修や交流会を開催し、地域間のネットワークを強化する。

緊張感やリアルさを感じた

救命講習会

五月十三日（水）彩の国すこやかプラザにおいて開催されました。これまで実施しておりませんでした、昨年度の地域学校協働活動推進セミナー等の参加者の声から企画しました。

講義と実技で約二時間、もしもの時に備えて、日本赤十字社の方のお話に聞き入り、実技も参加者同士で確認して大変有意義な時間となりました。



講師の話に聞き入る参加者



大声で助けを呼ぶ練習



喉にものがつまった時の対処法



参加者同士で脈を確認



AEDを実際に操作



胸の真ん中を強く、早く



胸が上がる程度に吹き込む

参加者から

何度か救命講習を受講したことがありますが、かなり忘れていたことがありました。特に、AEDを実践で使用することはなかったので、改めてやり方を学び直せてよかったと思いました。（放課後子供教室関係者）

事例を紹介するような講義形式の講習会ではなく、実践的な講習会でした。講話もより具体的で、何より実践的に心肺蘇生方法を学べたことと、直にAEDを操作できたことがとても貴重になりました。（学校運営協議会委員）

今までの怪我の手当は、曖昧な知識のなかで行っていたと再認識をしました。子供を預かるには対応する義務があるということを自覚し、今日の内容を復習し、スムーズに実践できるようにしたいと思います。（放課後児童クラブ関係者）

人工呼吸がとても重要だと、初めて知りました。数年前は胸骨圧迫さえしていれば大丈夫と認識していました。アップデートできて良かったです。（放課後児童クラブ関係者）

五月二十六日（火）文部科学省CSマイスター前川浩一氏をお迎えし、コーディネーター研修会を開催しました。長野県美麻地域づくり会議副会長や美麻小中学校地域学校協働コーディネーターも務め、多文化共生や障害のある子ども支援、地域資源を活用した教育の実践など幅広い活動をされている前川氏から、「ワークショップも交えて「地域協働の学校づくり」について講演をしていただきました。



鶴ヶ島市立杉下小学校による事例発表

地域に根ざした教育の必要性

- ・学校だけではなく、地域ぐるみで子供を育てることが不可欠
- ・ボランティアや保護者、地域住民が協力し合う仕組みづくりが大切
- ・一人ひとりの子供に寄り添った丁寧な関わりが求められる

地域コーディネーターの役割

- ・学校、地域、行政をつなぐ架け橋として、多様な関係者間の調整や課題解決にあたる
- ・対話の促進やネットワークの構築に力を入れる
- ・地域課題の把握と柔軟な対応が求められる

地域と何かやっていることが社会に開かれているというわけではない。そのつながりを使って、子供たちが**どう育つか**ということを共有することが重要。



個人で考えてから情報交換



お互いの意見を聞いてじっくり協議 あなたの活動は「支援」と「協働」どちら



参加者から

前川先生のすさまじい熱量の実践に圧倒されました。協働＝「開く」の意識をもちたいと思います。（行政関係者）

協働することの意味や同じグループになった方々と意見を話すことで新たな発見となりました。（教職員）

理想的に回っている事例だと思います。非常に興味深かったです。華やかな内容だけでなく、それをどう支えているのかが重要だと思いました。教育で地域おこしができることが素敵だと思います。果たしてこの役割が自分にどこまでできるだろうかというところをじっくり考えるきっかけになりました。学校の先生にも知っておいてほしいところです。（地域学校協働活動推進員）

自分の所ではなかなか難しいこともあります。子どもに関わるコーディネーターとして、共感する言葉も多く、子どもへの問いかけが大事とか、子ども視点のプログラム、プロや専門家を入れるなど、心に残っています。コーディネーターの可能性も感じました。1分と短い数回のワークショップでも端的に言葉を出し共有できたので満足感もあり、よかったです。（放課後子供教室関係者）



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

令和8年度
地域学校協働活動推進研修

地域学校協働活動 推進セミナー



～地域学校協働活動の充実に向けて～

第1回 参集

※サテライト
会場あり

8月4日 **火** 13:30～16:30

「**地域学校協働活動**につながる
学校運営協議会の充実」



講師：文部科学省総合教育政策局CSマイスター
朝倉 美由紀 氏

7月27日(月)締切

第2回 オンライン

8月24日 **月** 13:30～16:30

「学校支援から連携・協働に向かう
地域学校協働活動」



講師：文部科学省総合教育政策局CSマイスター
猿渡 智衛 氏

8月14日(金)締切

内容の詳細はこちら↓

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2215/ibasyo/suisinkensyu.html>

お申し込みはこちらから→



地域学校協働活動情報通信**COLLABO**は

地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働していくことが求められている今、県内各地の学校と地域の協働(collaboration)の様子について紹介していきます。年間5回の発行を予定しております。

発行元：埼玉県教育局教育総務部生涯学習推進課 令和8年7月発行

電話：048-830-6979 メール：a6975-05@pref.saitama.lg.jp(ご意見、ご感想、取材依頼はこちらまで)